

宝林宝樹

(17)



私たちは、意識しないまま色々な決め事の中で生きています。年末年始ともなれば尚更の事、地域により様々な習慣が有る事でしょう。

以前に事故に遭い、鎖骨を骨折するケガをしました。しばらくの間は、ギブス固定をして防具の様なコルセットを装着して檀家参りをしていた時、檀家さんから言われたことがあります。

「院主さん、どうしたんですか？」

「ちよっとスクーターで事故に遭いました…」

「院主さん、おいくつになりました？」

「????」意味も分からないまま、「四十一ですが…」

「あく、やっぱりねえ。気を付けたダメですよ」

「えっ、どういうことですか？」

「四十一と云うことは、数え四十二でしょ。厄年でしょ！」

いつも熱心に法座に足を運んで下さっている方からのこの言葉に、力の抜ける思いと同時に任職としての未熟さを痛感しました。

人は、やはり何かに頼りがちになります。私たちは、お釈迦さまが説かれた理(ことわり)、お念仏を拠り所にしたいいものです。

宝林宝樹

(17)



私たちは、意識しないまま色々な決め事の中で生きています。年末年始ともなれば尚更の事、地域により様々な習慣が有る事でしょう。

以前に事故に遭い、鎖骨を骨折するケガをしました。しばらくの間は、ギブス固定をして防具の様なコルセットを装着して檀家参りをしていた時、檀家さんから言われたことがあります。

「院主さん、どうしたんですか？」

「ちよっとスクーターで事故に遭いました…」

「院主さん、おいくつになりました？」

「????」意味も分からないまま、「四十一ですが…」

「あく、やっぱりねえ。気を付けたダメですよ」

「えっ、どういうことですか？」

「四十一と云うことは、数え四十二でしょ。厄年でしょ！」

いつも熱心に法座に足を運んで下さっている方からのこの言葉に、力の抜ける思いと同時に任職としての未熟さを痛感しました。

人は、やはり何かに頼りがちになります。私たちは、お釈迦さまが説かれた理(ことわり)、お念仏を拠り所にしたいいものです。